

錦城高校新聞

題字 井口 文章
再刊 第441号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2024

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：60年生、思い出あふれるスキー旅行
明日にせまった合唱祭
二面：一年生、各クラスで百人一首大会
百人一首スペシャル

歳王で白い青春を

60回生スキー修学旅行

1月29日(月)から2月2日(金)まで、60回生の修学旅行が行われた。天候にも恵まれ心に残る5日となった。

1月29日(月)から2月2日(金)にかけて、山形県蔵王にて60回生の修学旅行が行われた。1日目に最初に向かったのは蔵王体育館。入り口ではインスタクターさん方が拍手で迎えてくださった。体育館では開校式が行われ、本



帰ってきた蔵王スキー旅行(学校HPから引用)

部長を務めた串田昌也先生や蔵王ハイムスキースクール校長の岸宏さんからスキーに臨む60回生に向けての激励などが行われた。また、生徒代表の新美秀太郎さん(2L)は「修学旅行楽しみましたよー！」と修学旅行への楽しみを語った。

修学旅行2日目は、翌日に控える全山ツアーに備えてスキーの実力を伸ばすため、午前と午後合わせて四時間半ものスキー講習が各班に分かれて行われた。

初心者の方は初めてリフトに乗って一日よりも長い距離を滑り、着実に実力を伸ばした。経験者の方は何本かリフトを乗り継いで蔵王の雪景色を楽しみながら、より高度な技術の習得を目指した。講習後の宿では疲れた様子の生徒も見られたが、思っていたよりも楽しめたという声も多く



一面の雪景色が広がる

開かれた。修学旅行3日目は全山ツアーに赴いた。なれない板さばきも徐々に慣れ、リフトやケーブルカーを乗り継ぎ山頂を目指した。標高1300m付近にまで上ると奥羽山脈の峰々が堪能できた。そこから緩急様々なコースを下り、山中のレストランやおしゃれなカフェに寄りつつ、インスタ

クレーターさん達との交流を深めた。今年には雪が少なく樹氷もそこまで成長していなかったが、1日目からの日本晴れが続く、雪のコンディションもよく滑りやすかった。

最後に、全員に参加賞としてお菓子が配られ、クラスの壁を越えて楽しむことができていることができた。クイズ大会だった。

ホームルーム委員が作った質問をその場で先生が答えるという形式で、先生の初志の人の部活や、初デートの場所など、普段は聞くことのできない先生の一面を、クイズを通して知ることができた。

最後に、全員に参加賞としてお菓子が配られ、クラスの壁を越えて楽しむことができていることができた。クイズ大会だった。

クイズ大会だった。

くの板置き場付近に集まり行われた。学年主任の太田先生が「スキーは好きになりましたか!」と60回生に呼びかけると歓声とともに「はい!」の声。60回生全員がスキーを楽しめた様子だった。

閉校式の最後には、インスタクレーター一人一人には記念品としてタンブラーが贈られ、インスタクレーターからは蔵王の記念シールのプレゼントが渡された。会場はインスタクレーターとの別れを惜しむ生徒で埋め尽くされていた。

ケツ、手順書などが配布され、講師の方の説明に従いながら作業を進める。途中の講師の方の話で、上手に作れば約一円のものに価値のある味噌が出来ると聞き、



丹精込めて味噌づくり

た。作ったのは平清水焼という山形県伝統の焼き物だ。湯のみやお皿など様々なものを自由に作ることができる。一人一つ手のひらサイズの粘土が渡され、講師の先生を手本としながら思い思いの形を作っていく。お皿の淵の形を作る際、無理やり手の力を加えるのではなく少しづつ力を加えることでお皿の厚さを均等にしていける。この工程で力を強く加えてしまい、苦戦する生徒がよく見られた。



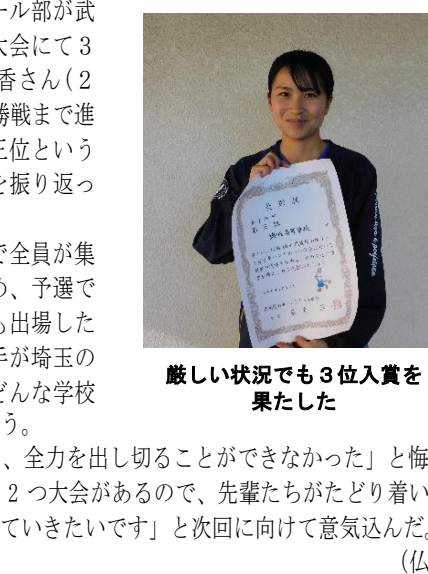
集中して作る(学校HPから引用)



思い思いに作成(学校HPから引用)

和菓子作り
C・E組は和菓子作り体験を行った。あんこは白や黄色、紫など様々な色もあり、水仙と菊の練り切りは全員共通で制作し、余ったあんこで好きなものを作った。

実際に体験したAさんは「あんこは粘土と似ており乾きやすいと言われ、いちいち水の布巾で手を濡らしてからあんこに触るのが楽しかった」と話す。また、実際に職人さんが使うような道具を使ったと言いつつ「技法などがすごかったです」と興奮した様子で体験を振り返った。



厳しい状況でも3位入賞を果たした

ボールに思いをのせて
ハンドボール部入賞

1月14日(日)に、女子ハンドボール部が武蔵村山ゆりーと杯争奪ハンドボール大会にて3位入賞を果たした。部長の小林萌々香さん(2D)にお話を聞くと「昨年は予選の決勝戦まで進むことができなかったため、今回第三位という結果を残せてうれしいです」と大会を振り返ってくれた。

冬休み中の練習では感染症やケガで全員が集まることがなかなかできなかったため、予選では一年生含め、けがをしている部員も出場したという。本選までの一週間は対戦相手が埼玉の学校で戦力が未知数であったため、どんな学校でも対応できるように練習に励んだそう。

迎えた本戦も「万全な状態ではなく、全力を出し切ることができなかった」と悔しさを語った。最後に小林さんは「あと2つ大会があるので、先輩たちがたどり着いた都大会出場を目指し、一年生と頑張っていきたいです」と次回に向けて意気込んだ。(仏)

雪が降りましたね



雪の影響で下駄箱から校庭へと続く道で木が倒れました。学校生活の中で木が倒れてくることはめったにないですが、思わぬ天候によって木が倒れる可能性があります。気を付けて登校しましょう。

新聞委員会ではパソコン、カメラ募集中!
使っていないカメラなどが
ありましたら、ぜひお声かけください。

第440号に誤りがありましたので、訂正しお詫び申し上げます
440号裏訂正
第72回元日競歩大会
誤)早川愛花(2K) → 正)早川愛花(2L)
前々回に続き、前回の訂正の紙面でも間違えてしまい、誠に申し訳ございません。

1月14日(日)に、女子ハンドボール部が武蔵村山ゆりーと杯争奪ハンドボール大会にて3位入賞を果たした。部長の小林萌々香さん(2D)にお話を聞くと「昨年は予選の決勝戦まで進むことができなかったため、今回第三位という結果を残せてうれしいです」と大会を振り返ってくれた。

自主的に勉強しているという友達に「これをやったらいいよ!」と勧められているという。自主的に勉強しているという友達に「これをやったらいいよ!」と勧められているという。自主的に勉強しているという友達に「これをやったらいいよ!」と勧められているという。

むらさき草

入学から早10か月、一つ疑問に思っていることがある。小テストの受け方だ。直前の休み時間に詰め込んでいる友人をよく見る。かくいう自分もその一人だ。が、本当に意味はあるのだろうか。小テストの目的の一つは、学習習慣の確立だ。だが、直前詰め込み方式では、学習習慣の確立につながっていない。とは言えないと思う。現状、平常点UPという「アメ」や、赤点という「ムチ」による勉強になっており、自主的に勉強しているという友達に「これをやったらいいよ!」と勧められているという。自主的に勉強しているという友達に「これをやったらいいよ!」と勧められているという。

（錦城百人一首）新入生 NJUDGE されるよ！ シス単に STAGE 五とか超 SPARK JOB(シスターこそ正義) 先生はどこにいろんだ 被読後に 位置共有の アブリください(しゃやく) 「クラッシー アップしてたよ」 友は言う 今知ったんだけど バカヲレがよ…(詠み人知らず)

# 楽しみながら伝統に触れる

## 61回生言語文化の授業で百人一首

新型コロナウイルスの流行前には行われていた一年生の百人一首大会。今年度は、規模を縮小して各クラスごとに百人一首が行われた。今号では、大会に参加した生徒の声や先生の本音をお届けする。

(編集部共同取材)

### 各クラスで対抗戦

2年生が修学旅行に行った1月29日(月)から2月3日(土)までの1週間、1年生では各クラスで百人一首が行われた。クラスを生活班ごとに分け、1グループ6人、8人で札を取りあった。言語文化の授業1コマ分での実施となったため、1000首全ての歌に触れることは出来なかったが、いざ試合が始まると札を次々と取り合う大熱戦となった。経験者から未経験者まで、1枚でも多くの札を獲得することを目指して真剣にプレイする1年生の姿が多くみられた。

(1H)は「歌を読み上げられ



真剣な表情で札に向き合う



札が読まれる前の緊張の瞬間

## 昔もあった！錦城百人一首大会



2012年2月28日第92号の表紙で特集されたのが、第二体育館で開催された一年生の百人一首大会である。この大会は、同月8日のLHRの時間にクラス対抗として初めて行われた。大会のコンセプトは、古文の授業を踏まえて日本の有名な和歌を生徒が楽しみながら覚えるというものだ。百人一首は授業内で暗唱例文として取り上げられたほか、冬休みの宿題でもあった。競技方法は、各クラスで男女混合の4~5人のチームを10組ほど作り対戦するという形式になっており、対戦は札を散らして8人で取り合う「ちらし取り」で行われた。読み手は国語科の教師が務め、1対戦で約20首が読まれたそう。なにわに咲くやこの花冬ごもり今を春べと咲くやこの花と仁徳天皇の歌を空札として読まれた際に包まれるピリピリとした緊張感に勿論、記事の中にはこんな記述がある。「札が読まれると各グループから歓喜の雄叫びがあがり、ゲームの進行とともに次第に盛り上がり、体育館の中に歓声が響いた」。今回61回生が楽しんだ百人一首のミニゲームはクラス内で行われた。しかし、一札を取った、取られたときのざわめきや歓喜の声はとにかく大きく、思わず耳を塞いでしまったほどだった。10年以上経っても変わらない錦城生の底なしの活力を、紙面を通じて感じる。ゲームが始まる直前の61回生たちの様子も、昼休みに便覧を開いて「うっかりはげ……うっかりはげ……」と連呼し「憂かりける」の一首だけを完璧に覚えようとする生徒や、不安な歌を友達と確認する生徒がたくさんいた。昨日の夜に歌を覚えられなくても、直前まで粘ろうとする錦城生の姿はともにも眩しく思える。来年もぜひ、活気にあふれた錦城生たちの姿を見られたらと思う。

(普)



大きな写真で実際の雰囲気伝える

## 百人一首大解剖 百人一首同好会に魅力を聞く

### 百人一首とは？

百人一首とは、100人の優れた歌人の歌を1首ずつ選んだ歌集。平安時代の歌人・藤原定家が「古今和歌集」などの勅撰集から選り、京都小倉山にある山莊の襖の紙に書いたことから「小倉百人一首」が生まれた。江戸時代に入り木版印刷の技術が普及すると、絵入りの歌が広く庶民に広まるようになった。今のカラ対戦が広まったのも江戸時代頃。競技かるたの試合に勝つためには様々な能力が求められる。句の暗記、札の配置の把握力、読み手の声に即座に反応する瞬発力。メンタルとフィジカルの総合力で勝負が決まる。洗練された動作が求められ、それを追求める奥深さが、百人一首が永く愛され続けてきた秘訣ではなからうか。(『新訂総合国語便覧』第一学習社等参照)

### 百人一首の楽しみ方

百人一首同好会の鈴木萌衣さん(1D)によると、百人一首は「昔の人がどんなことを感じたり考えたりしていたか。たとえその札が取れなかつたとしても、それがひとつのきっかけとして、歌を競技形式で楽しめるところ」が魅力だ。また「体力を使うだけで楽しめると思いが、笑顔で語ってくれた。



百人一首同好会による実際の試合の様子

また、百人一首を初めて行う61回生に向けて「まずは句を声に出して覚えるところから始めるといいと思います」とアドバイスを送った。ちなみに、鈴木さんが一番好きな句は「あしびきの」だ。「百人一首を始めて一番最初に取れた句で、枕詞や掛詞がめぐるのも魅力の一つだと思いたくさん使われているところに魅力を感じます。」

## 大会報告

- 空手道部
- △1月17日、1月18日
- 関東高等学校空手道選抜大会
- 3人制女子団体組手 出場
- 陸上競技部
- ▽2月4日
- こだいら市民駅伝
- 一般男子の部
- 一般女子の部
- それぞれ入賞

## 生徒会動静

1.25~2.17

合唱祭実行委員会

2月25日(日) 合祭実行委員会

2月8日(金) 放送予定

2月15日(金) 放送予定 中央委員会出演

## 編集委員(瑞)の「押し札」を紹介！！

かささぎの渡せる橋に置く霜の白さを見れば夜ぞ更けにける

(中納言家持)

意味：「七夕の日、牽牛と織姫を逢わせるために、かささぎが翼を連ねて渡したという橋(天の川)にちらばる霜のようにさえずとした星の群れの白さを見ると、夜もふけたのだなあと感じてしまうよ。」

この句には、上記の意味のほかにも「かささぎの橋」を平城京の御殿の階段になぞらえて「天上をつなぐ階段」とする解釈もある。百人一首にはこの例のように解釈に幅があるものがあるが、そんな自由さこそこの句の魅力の一つだ。また、色の対比が効果的に使われているところもポイントである。夜の暗さと霜の白さとの正対的な色のコントラストも相まって、冬の夜特有のきりっとした空気を肌を感じる事ができる。

## 大江山いく野の道の遠ければ まだふみもみず天の橋立

(小式部内侍)

意味：「大江山を越え、生野を通る丹後への道は遠すぎて、まだ天橋立の地を踏んだこともありません。母からの手紙も見てはいません。」

この歌の魅力は、巧みな掛詞とその背景にあるエピソードである。この句は、年少ながら非常に歌が上手いと評判であった作者の小式部内侍が招かれた歌合(歌を詠み合う会)で詠まれたと言われている。母親による代作疑惑を藤原定頼に皮肉られた内侍が即興で詠んでみせたのがこの歌だという。「生野」と「行く野」を掛け、さらに「踏みもみず」と「文も見ず」を掛けた華やかな歌と、年上で立場も上の男性相手にその技巧を見せつけた内侍のカッコよさに、惹かれずにはいられない。

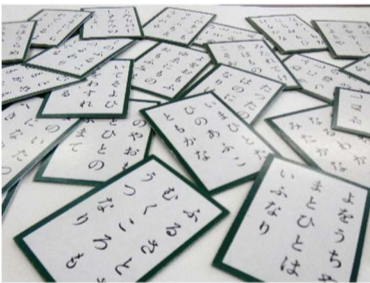


これからも今回のような百人一首を行うかどうかは未定だが、この経験を経て「ささやかな取り組みではあります。が、古典に触れるきっかけにしてくれたらと思います」と生徒たちにメッセージを送ってくれた。

古典に親しむ良いきっかけとなる今回の百人一首大会。錦城ではかつて体育館でクラス対抗戦を行ったこともあるそう。今号の過去記事セレクションでも紹介しているの、ぜひ読んでみてほしい。

(蘭・伝)

## こんなところでも百人一首



百人一首の取り札

クラス内で行われたゲームの中では「百人一首を覚えるのはちょっと難しい」「近寄りたがたい」という声も聞かれた。しかし、現在では漫画やドラマなどから百人一首の魅力にハマる人も多い。ここでは、百人一首に関係のある現代の作品を紹介する。

一つ目は、末次由紀先生による漫画『ちはやふる』(講談社)だ。小倉百人一首競技かるたに青春をかける高校生たちの物語で、アニメ化や映画化もされている。今回行われたクラス内のミニゲームでも、在原業平に関する現代の作品を紹介する。

二つ目に紹介するのは、現在放送中のNHK大河ドラマ『光る君へ』だ。吉高由里子さん演じる主人公のまひろ(紫式部)がわりやく平安の時代を懸命に生きる様子が描かれている。先に紹介した『ちはやふる』の作者である末次先生も『光る君へ』についてXに次のような投稿をしている。「(前略)物語に触れて、小さなことでも『これってほら、あれだよ!』と言いたい夜がきつと源氏物語を読んでいる宮廷の姫にも女房にも女官にもあったはず。それがいまはSNSに。」紫式部は「めぐり逢ひて見しやそれともわかぬ間に雲がくれにし夜半の月かな」の一首を詠んだ女性としても有名だ。この歌は友との慌ただしい再会を月に託して惜しんだもので外灯のない平安時代だからこそ読まれた一首であろう。『光る君へ』では、そうした当時の生活背景や紫式部の人生を楽しく知ることができる。ぜひ一度見てみてほしい。

(普)

(錦城百人一首) 紅葉の景 散って光りぬ あかねいろ 期末の解答「何ミスった…」 (含まれもの) ご飯前 水道並ぶふと思ふ アルコール除菌すればいいんじゃないかね? (こあら) エレベーター 何階分まで使っている? 4階生徒「ギリ階段か」(ねこだいすき)